

# 檜の会

平成十九年  
神無月  
第二十四号

NPO法人「檜の会」事務局  
京・東山やすい松小路  
TEL/FAX 〇七五五二五〇八〇三

皆様のご意見、ご投稿など  
お待ちしております。  
E-mail [BD503240@nifty.com](mailto:BD503240@nifty.com)

企画・編集／檜の会会報編集室  
発行／季刊（一・四・七・十月）  
<http://village.infoweb.ne.jp/hinoki/>

## 雅楽

雅楽器師 山田 全一

世界の文化遺産の一つに雅楽「歌物、管弦、舞楽」があります。

雅楽はもともと中国唐時代大陸、或いは朝鮮半島の高麗の国または狛の国(地域名)「唐楽」「高麗楽」とともに七世紀〜八世紀に我が国では天平時代に伝来し、奈良・平安時代に始まり、約一三〇〇年の歴史と誇り得る芸能で、雅楽演奏、演舞と合わせ、笙、篳篥、笛(龍笛、高麗笛、神楽笛)、倭笛などで「三管を知って一管を知る」と言葉どおりであります。



明治天皇御九歳の誓と伝わる「笙」の字 (山田家所蔵)

また、歴代の皇室の保護の基、宮内庁式部雅楽部、楽師たちによって伝承され、国の重要無形文化財(人間国宝)に指定されています。

雅楽を一言で解りやすく言うとならば喜怒哀楽を超越した音、籟(舞)と平安朝の優雅な御遊(遊)と宮廷文化の伝承者と雅を大切に遊ばされている様子が、源氏物語、大和絵と舞い奏で遊ぶロマンが伺い俤ばれます。

そのものが用と美を凝らした精神文化の素晴らしい総合芸術である事を改めて認識して頂ければ幸いです。

(重要無形文化財(指定文化財保存技術保持者))

## 第二回「伝統文化の精華」

### 茶道文化と美術工芸展(ご報告)

去る九月二日(日)南禅寺前京都市国際交流会館和風別館に於いて開催しました「茶道文化と美術工芸展」は、海外留学生達を主客とし京の文化芸術との交流の場を目的とし、設営いたしました。

この催事では、先ず表千家の山口務氏社中の特別奉仕による、お茶席でもてなしの茶道文化を留学生に体感して頂くことでした。特製の京菓子をおいしい、薄茶を喫し、山口務師匠から李朝時代に作られた茶碗や鹿兒島の旧家に伝わった「茶杓」などお茶道具のお話などを聞かせて頂き、和やかな雰囲気のお茶席でした。

美術工芸品出展コーナーでは、当NPO法人檜の会会員の、着物、乾漆の香合、伝統結び、現代結び、金箔などの作品に加え、特別出展の重要無形文化財山田全一師の煤竹を束ねて作った雅楽器「鳳笙」と兼松清師の黒漆に螺鈿を施したひじ掛などを時間をかけてじっくり鑑賞して頂くことができました。



当日は、天候にも恵まれ暑くもなく、東京・名古屋などご遠方からのお客様を含め九十余名をお迎えし、終日盛会裡に終えることができました。

これ偏に昨年につづき、本会の特性を理解し、出展下さった会員の方々並びに有志の特別賛助の賜物であり心から敬意と感謝を申し上げます。今後、良い企画を考究し、当会の本領を全う出来るよう精進する所存でございます。一層のご支援ご鞭撻の程お願い申し上げます。

平成十九年九月吉日

第二回「伝統文化の精華」運営委員長

近藤 富士金  
役員 一同

### 郡上踊り・宗祇水によせて 脇谷 英勝

八月三日午前八時四十五分に京都藤森駅に集合し、三〇分遅れの高速バスに乗って郡上八幡に向かった。近江富士(三上山)の山容が美しい。俵藤太秀郷の百足退治の伝説を想い、語りながら車窓に目を凝らす。遙か伊吹山を遠望し、ヤマトタケルや芭蕉の句を想い出す。そしてお花畑の高山植物たちにも思いを馳せる。長良川の清流を眼下に眺めているうちに、バスは高速郡上八幡に着いた。タクシ―で今宵の宿吉田屋に寄り、荷物を置いて平甚に行く。うまい具合に昨年と全く同じ、清流の見える席が空き、さっそく名代のソバを喰う。

宗祇水を訪れ、水野隆氏の連句の捌板を見、宗祇水の説明をし、写真を撮す。宗祇といえは、「世にふるもさらにしぐれの宿りかな」の名句を想起する人も多いであろう。京都北野連歌会所奉行を務め、『新撰菟玖波集』を奏覧し、弟子の宗長・肖柏と共に「水無瀬三吟」を残したこともよく知られる。宗祇がこの郡上地方にやって来たのは、郡上大和の篠脇城にいた東常縁から「古今伝授」を受けるためである。文明三(一四七二)年の春頃、宗祇は伊豆三島で第一回目の古今伝授を受けているが、さらに六月十二日から七月二十五日に第二回目の伝授を郡上で受けている。

東常縁は、当時和歌や古典研究の第一人者として、またすぐれた武将としてもよく知られていた。一般的には弟子の宗祇の方が有名であるが、中世室町時代を代表する歌人であり、歌論家でもあった。常縁の生涯では、『東野州聞書』の著作や斉藤妙春に奪われた城を、十首の和歌によって奪還したこと、さらに宗祇に古今伝授を行なったことで知られる。

郡上八幡の宗祇水は、江戸時代(寛文年間)に遠藤常友が「白雲水の記」の中で八幡城下で伝授が行なわれたように書いたのが、その起りのようであるが、今日ではこの説は採られない。古今伝授も次の短連歌

花ざかり所も神のみ山かな 常縁

さくらに匂ふ峯の榊葉 宗祇

も、郡上大和の明建社から東氏館で行なわれたとするのが妥当であろう。明建社境内には、この短連歌碑が建てられている。郡上八幡では、吉田川畔で常縁と宗祇が別れを惜しみ、

紅葉ばのながるる竜田しらくもの花のみ吉野思ひ忘るな 常縁

の歌とともに、今日の宗祇水が伝えられ、近年文学碑まで建てられているのである。

吉田屋での夕食は、鮎尻であった。鯉の洗いや鰻も出たが、食べ切れないほどであった。今夜は、この宿の前が踊りの場である。台風の余波か、あいにくドシャブリになったが、中止にはならない。安田理事長や同志社大学の滝澤さんは、熱心に踊っている。中井さんも踊りの輪の中に溶け込んでいったが、角田さんと私はカメラを手に写真係りをつとめた。地元の人々は、さすがにうまい。外国の若い女性や子供たちも踊っている。郡上踊りといえは、今年の手拭いにも染め抜かれている「郡上の八幡出て行く時は 雨も降らぬに袖絞る」(この歌碑は、旧庁舎前に建っており、「袖濡らす」になっている)で知られる「かわさき」をはじめ、「春駒」(旧称「さば」)や歌詞の面白い「猫の子」、さらに七七調の長詞形の「ヤツチク」など十曲以上が踊られる。郡上踊りについては、『改訂版郡上の民謡』(郡上史談会・平成九年五月)に詳しい。雨の中、男姿で踊っていた滝澤さんが受賞したことは、実に嬉しいことであった。

朴葉ミソなどの朝食を終え、一応解散することになったので、私は水野隆氏宅を訪ね、最近活字にした論文の抜刷を贈呈し、しばらく歓談し、郡上大和の「古今伝授の里」についての情報を得て、タクシ―で出かけた。

「古今伝授の里フィールドミュージアム」で、水野氏に紹介された所長の金子氏と名刺を交わし、和歌文学館・歴史資料館・東氏記念館、さらに庭園や明建神社などを案内していただいた。写真を撮り、『東常縁』(井上宗雄・島津忠夫編・和泉書院・二〇〇六・七初版第二刷)・『東氏ものがたり』(東氏文化顕彰会・第三刷・平成八年十一月)や『改訂版郡上の民謡』などを入手した。Tシャツや朴葉寿司・梅干しなどを買って、金子氏にバス停まで送っていただき、JR岐阜から名古屋へ、そして近鉄で吉野へ帰った。一泊二日の旅にしては、有意義な旅であったと飲んでいいる。二〇〇七・八・十六 旭日のさしはじめた吉野天川村河川にて 帝塚山大学人文科学部教授・当会副理事長

### 「お知らせ」【お問い合わせは、当会事務所まで】

#### ●檜の会主催

#### ◇秋季文学・歴史散策

―須磨・明石く万葉と平家物語をめぐる―

日時 十一月十八日(日) (詳細折込み会報号外を参照下さい。)

#### ●関連情報

#### ◇楽 吉左衛門展

於 佐川美術館 九月十五日〜三月二十日まで